第２章　現状と課題

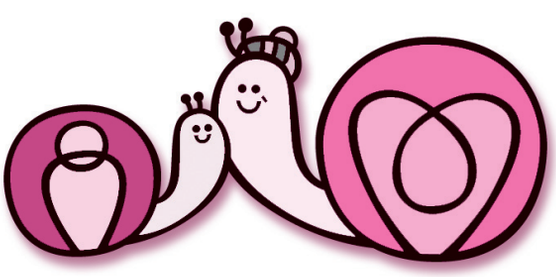
１．南区の概況

南区は、平成20年に区政100周年を迎えた、歴史のある区のひとつです。また、今年はこの地域に大きな被害をもたらした、昭和34年の伊勢湾台風から55年を迎えます。

南区役所が策定した平成25年度南区区政運営方針（南区役所が重点的に取り組む目標や施策）の中でも、災害に備え、地域が自主的に災害時に助け合う仕組みづくりの支援に取り組むなど、防災への関心が高い地域です。

人口や世帯数に目を向けると、人口は138,403人、世帯数は60,950世帯（平成25年４月現在）で、第２次活動計画策定時と比較すると、人口はおおよそ3,900人減少、世帯数は400世帯以上減少（第１次活動計画策定時と第2次活動計画策定時の比較は、それぞれ3,000人減少、1,000世帯以上増加）となっています。

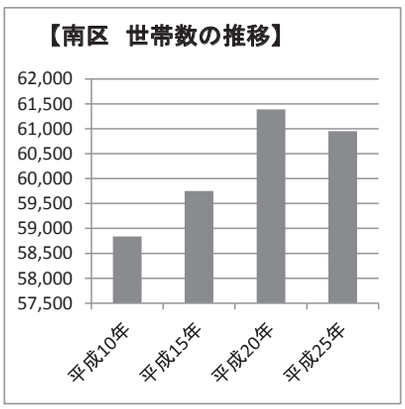
年齢別の人口をみると、人口に占める65歳以上の高齢者の割合は26.5％で、市内では一番高い区となり、年々上昇傾向にあります。一方、15歳未満の割合は11.1％と、こちらは年々低下傾向にあり、ますます少子高齢化がすすんでいます。先にあげた南区区政運営方針において、子育て支援も掲げられています。

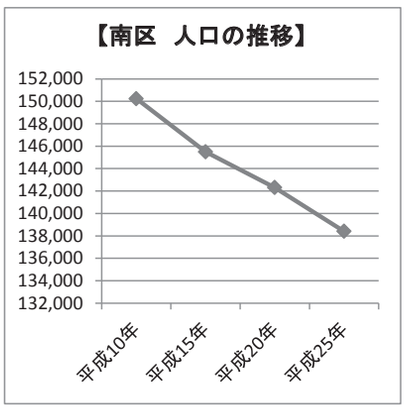


■人口・世帯数の推移（毎年4月1日現在）

【南　区】

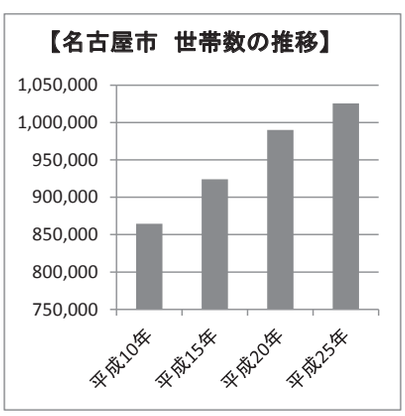
	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年
世　帯　数	58,838	59,752	61,386	60,950
人口の総数（人）	150,240	145,499	142,309	138,403
うち）男（人）	76,807	73,967	72,562	69,991
うち）女（人）	73,433	71,532	69,747	68,412

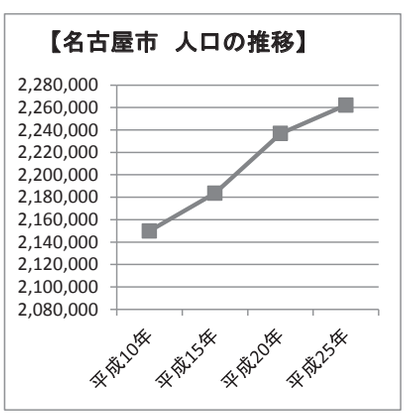




【名古屋市】

	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年
世　帯　数	864,462	924,136	990,143	1,025,668
人口の総数（人）	2,149,884	2,183,637	2,236,844	2,262,176
うち）男（人）	1,071,228	1,083,984	1,110,683	1,113,408
うち）女（人）	1,078,656	1,099,653	1,126,161	1,148,768





■年齢別人口の推移（毎年4月1日現在）

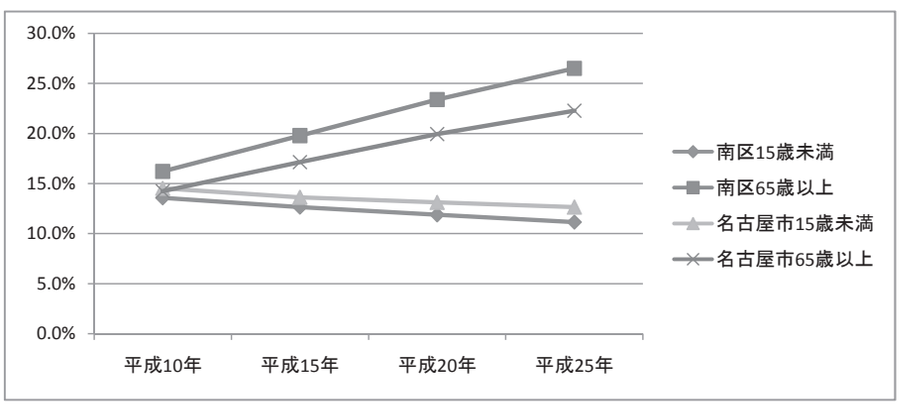
【南　区】

	平成10年		平成15年		平成20年		平成25年	
	人口(人)	構成(%)	人口(人)	構成(%)	人口(人)	構成(%)	人口(人)	構成(%)
15歳未満	20,389	13.6	18,385	12.6	16,891	11.9	15,417	11.1
15～64歳	105,370	70.1	98,066	67.4	91,310	64.2	84,940	61.4
65歳以上	24,370	16.2	28,792	19.8	33,293	23.4	36,674	26.5
うち)65～74歳	15,187	10.1	17,157	11.8	18,621	13.1	18,953	13.7
うち)75歳以上	9,183	6.1	11,635	8.0	14,672	10.3	17,721	12.8

【名古屋市区】

	平成10年		平成15年		平成20年		平成25年	
	人口(人)	構成(%)	人口(人)	構成(%)	人口(人)	構成(%)	人口(人)	構成(%)
15歳未満	312,227	14.5	297,577	13.6	293,258	13.1	286,016	12.6
15～64歳	1,523,709	70.9	1,489,167	68.2	1,476,548	66.0	1,436,610	63.5
65歳以上	306,070	14.2	374,266	17.1	445,959	19.9	503,781	22.3
うち)65～74歳	192,155	8.9	225,463	10.3	251,022	11.2	264,207	11.7
うち)75歳以上	113,915	5.3	148,803	6.8	194,937	8.7	239,574	10.6

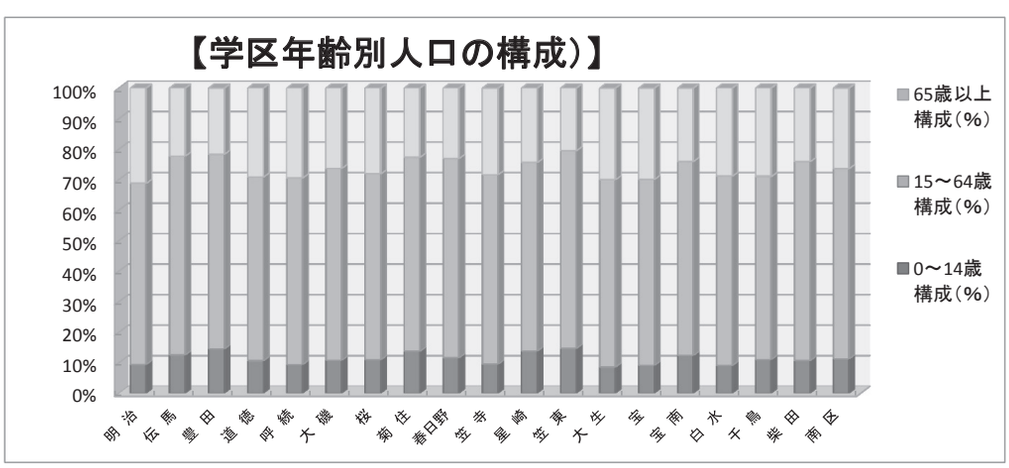
※構成(%)については、年齢不詳の人口数があるため100%にはなりません。



■学区年齢別人口の構成 【学区別年齢別公簿人口（平成25年4月1日）】

学　区	総　数		0～14歳		15～64歳		65歳以上	
	人口(人)	構成(%)	人口(人)	構成(%)	人口(人)	構成(%)	人口(人)	構成(%)
明　治	11,103	100.0	1,049	9.4	6,584	59.3	3,470	31.3
伝　馬	8,399	100.0	1,057	12.6	5,468	65.1	1,874	22.3
豊　田	8,693	100.0	1,267	14.6	5,540	63.7	1,886	21.7
道　徳	9,246	100.0	987	10.7	5,562	60.2	2,697	29.2
呼　続	9,857	100.0	926	9.4	6,025	61.1	2,906	29.5
大　磯	5,808	100.0	629	10.8	3,649	62.8	1,530	26.3
桜	6,643	100.0	730	11.0	4,046	60.9	1,867	28.1
菊　住	8,810	100.0	1,215	13.8	5,595	63.5	2,000	22.7
春日野	8,354	100.0	974	11.7	5,452	65.3	1,928	23.1
笠　寺	12,162	100.0	1,164	9.6	7,548	62.1	3,450	28.4
星　崎	6,073	100.0	840	13.8	3,751	61.8	1,482	24.4
笠　東	7,459	100.0	1,098	14.7	4,829	64.7	1,532	20.5
大　生	4,444	100.0	382	8.6	2,726	61.3	1,335	30.0
宝	8,203	100.0	752	9.2	4,995	60.9	2,456	29.9
宝　南	8,423	100.0	1,045	12.4	5,351	63.5	2,027	24.1
白　水	6,119	100.0	557	9.1	3,794	62.0	1,768	28.9
千　鳥	5,869	100.0	649	11.1	3,517	59.9	1,703	29.0
柴　田	4,114	100.0	441	10.7	2,681	65.2	992	24.1
計	**139,779**	**100.0%**	**15,762**	**11.3**	**87,113**	**62.3**	**36,903**	**26.4**

※公簿人口は、住民基本台帳人口と外国人登録人口を合算したもので、P7 および P8 の人口（推計人口）とは異なります。
　また、年齢不詳の人口数があるため、合計人数は一致しません。



2．第２次活動計画の評価と課題

第２次活動計画策定以降、３つの基本計画の達成に向けて、地域住民や関係機関と協働し福祉のまちづくりを進めてきました。

平成21年度からの５年間で、14の実施項目に基づき事業を展開してきましたが、実施段階で新たな課題や第３次活動計画へ継承していく課題なども見えてきました。

〈地域で支えあう関係づくり〉

人と人のつながりが希薄になっている現在、地域で支え合い暮らしていくため、地域住民同士が地域で出会え、交流できる機会のきっかけづくりに取り組みました。

防災ずきんづくり講座の開催など、新たなつながりはできたものの、より具体的な成果を残すことはできませんでした。

今後は、より具体的に地域全体へと広がりをみせる取り組みや働きかけが必要と認識しました。

〈多種多様な人材を活かした事業づくり〉

地域活動の担い手となる人材づくりのために、これまで地域の活動に関わりが少なかった勤労世代の若い男性、企業、趣味活動者などへ働きかけ、新たな活動へつなぐ取り組みを行いました。また、世代を越えたつながりをつくるために保育園などで世代間交流事業の推進をしました。

今後は、取り組みの中で生まれたネットワークや人材を活かし、新たな活動の展開や活動者の把握をしていく必要があります。

〈つながりができる仕組みづくり〉

地域福祉を活性化させるため、様々な社会資源と協働して事業を実施するとともに、福祉活動を進める拠点づくりにも取り組みました。

住民団体や企業等との連携、障がい者・高齢者の作品展の開催等を通し、障がい者が社会に参加できる機会をつくりました。また、福祉活動を進める拠点である「ここバリ（心のバリアフリー）すぽっと」の数は南区内に100ヵ所を超えました。

今後は、これらの取り組みの中身をさらに充実させるとともに、一部の地域だけではなく地域全体へと広めていく必要があります。

●実施項目の評価と課題

基本計画・実施項目			評価・課題
地域で支え合う関係づくり	1	防災ずきんづくりで地域の交流	防災ずきんの作り方等を記載したレシピを作成し、区内各所で防災づくり講座を実施した。「防災ずきんづくり」を通して、地域での防災意識の向上を目指し、№２と統合し実施した。
	2	地域で防災意識の向上	№１の「防災ずきん講座」の開催のほか、災害ボランティアグループ「名古屋みなみ災害ボランティアネットワーク」と協働し、地域での防災意識の向上に努めてきました。
	3	子どもの視点も活かした自分たちのまち調べ	サマーボランティアスクール（現：夏季ボランティア講座）の参加中高生を中心に、区内の公園調べを行ったり、ボランティアグループ体験などを行いました。
	4	地域福祉推進協議会の地域住民へのPRと協働	推進協関係者向けに、「すいしんきょう新聞」の発行及び研修会を開催してきました。今後は、地域住民に広くＰＲしていく必要があり、第３次地域福祉活動計画に引き継がれます。
	5	地域の人や様々な行事をつなぐ場づくり	人と人、行事と行事をつなぐきっかけの場として「南区福祉行事・イベント交流会」を毎年実施しました。今後、社協事業に対する地域住民からの評価の場としても開催していきます。
多種多様な人材を活かした事業づくり	6	男性が地域活動をするためのきっかけづくり	小学生の父親世代の男性を対象に「お父さんと子どものチャレンジセミナー」を実施し、若い男性の地域活動への参加を促しました。受講者から「南区お父さんクラブ」が誕生しました。
	7	地域における世代間交流事業の把握と他事業とのコラボレーション	宝保育園にてモデル事業を実施し、地域のボランティアと園児が農業体験を通して継続的に交流できました。高齢者サロンと保育園、はつらつクラブと小学生といった世代を越えた交流事業は今後も続けていく必要があります。
	8	福祉に関心をもってもらうための働きかけと福祉を支える人材づくり	音楽披露、傾聴、個別支援などニーズに応じたボランティア養成講座を開催し、組織化できました。企業にむけての社会貢献にかかるアンケート調査も行いました。企業との連携は第３次においても継続して取り組んでいく必要があります。
	9	趣味活動など既存活動者の把握と働きかけ	コミセン等で活動するサークルをボランティア活動につなぐことができました。大同大学の漫画研究部には、統合失調症の啓発のための紙芝居を作成してもらうことができました。
つながりができる仕組みづくり	10	障がい児・者およびその家族の意識調査	障がい児・者およびその家族を対象にアンケート調査を実施し、障がい児・者が抱える地域の課題を明らかにしました。調査結果をもとに№１１につなげました。
	11	障がい児・者が参加しやすい地域行事の実施	障がい児・者が防災訓練や運動会等の行事に参加できるような取り組みを行いました。今後も既存のものは引き続き実施していき、さらに実施範囲を広げていく必要があります。
	12	福祉施設の情報を発信するシステムの構築	障がい児者施設等情報誌「さわやか」のＷＥＢ版の更新とともに冊子版も発行しました。今後は更新、発行は引き続き定期的に行いつつ、口コミ情報掲載等の発展も考えています。
	13	福祉協力店（仮称）の募集	南区内で広がっている心のバリアフリーを広げる拠点である「ここバリすぽっと」を、第３次地域福祉活動計画でも、発展させていきます。
	14	福祉活動の PR 方法の構築	広報誌やイベントなどの機会を通し、さまざまな福祉活動のＰＲをしてきました。広報誌の連載は継続し、ブログなど時代にあったＰＲ方法を今後も検討していきます。

３．財源について

第３次活動計画をはじめ、本会の事業にかかる財源は、社協会員会費や寄付金、共同募金（以下、「自主財源」という。）など、地域の皆様方からのご芳志が中心です。

しかし、近年、自主財源は減少傾向にあります。限られた財源の中で、第３次活動計画で掲げる事業を実施していくため、既存事業の見直しや効率的な事業の実施を常に念頭に取り組んでいく必要があります。また、自主財源確保のため、赤い羽根共同募金運動への取り組みの強化などが求められています。